

人工海藻とカキ殻を用いた伊勢えび増殖礁の 伊勢えび幼生の着底・生育促進効果

伊勢えびにとって重要な藻場が減少しています

伊勢えびは幼生時に沖合から泳いで沿岸に来遊し、岩礁地帯に繁茂する海藻に着底して稚エビになり、藻場に生息する小型の甲殻類や貝類等を食べて成長します。

しかし、三重県沿岸海域では、地球温暖化や黒潮大蛇行(2017年8月～2025年4月)による高水温化に伴い、伊勢えび幼生の着底や、餌となる生物を供給する場として重要な藻場が減少しています。



岩礁の隙間に潜む伊勢えび

人工海藻とカキ殻を用いた伊勢えび増殖礁の効果調査

三重県では、伊勢えび資源の保護・育成のため、コンクリートブロック等を用いた伊勢えび増殖礁(人工魚礁)の造成を進めています。

そこで伊勢えび増殖礁に、海藻の代替となる人工海藻とカキ殻を設置し、伊勢えび幼生の着底促進効果と、稚エビの餌となる生物の生息状況を調べました。

【結果】

人工海藻には、夏季に来遊した伊勢えび幼生が多数着底することが確認されました



伊勢えびの
プエルルス幼生
(大きさ約2cm)



海底に設置した人工海藻やカキ殻には、海底の転石よりも多くの小型エビ類やカニ類、ヤドカリ類、ヨコエビ類、巻貝類等が確認されました



これらの結果から、伊勢えび増殖礁に

- 人工海藻を設置することにより、来遊する**伊勢えび幼生の着底を促進する効果**が期待されます
- 人工海藻やカキ殻等の基質を設置することにより、餌料生物が供給され、幼生着底後から漁獲サイズまでの**伊勢えびの生残、生育を高める効果**が期待されます

*これらの成果は、令和4年度に作成した「イセエビ増殖礁造成の手引き」に反映し、改訂版として取りまとめました。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001247444.pdf>



三重県水産研究所 沿岸資源増殖研究課

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒517-0404志摩市浜島町浜島3564-3

TEL (0599)53-0016

FAX(0599)53-2225

(2026年6月発行)